

積雪底面流出量推定モデルの融雪期斜面への適用

佐藤亮太 飯倉茂弘 高橋大介 鎌田慈 宍戸真也

融雪期には降水のない晴天日でも融雪水に起因する斜面災害が発生することがあります。そのような災害が発生する危険度を評価することを目的として、災害の要因である積雪底面からの融雪水の流出量をアメダス等の一般に入手可能な気象データから推定するモデルを開発しました。このモデルは、積雪表面での熱収支に大きく影響する斜面の方位と傾斜を考慮しており、平地を含めて様々な斜面を対象として融雪水の流出量を計算することができます。積雪地域の融雪期間における積雪底面流出量の観測を行い、その観測値と本モデルによる推定値とを比較した結果、1時間単位の推定でばらつきはあるものの（推定値と観測値の

決定係数 $R^2 = 0.6$ ）、融雪期間の積算値は観測値を精度良く推定できることがわかりました。

